



日本で注目の岐阜県 飛騨市の学校作業療法室施策

学校に作業療法室を取り入れた 施策の仕組みと効果



～行政の立場から～



講師 2 名



都竹 信也氏

飛騨市 市民福祉部次長
兼 総合福祉課長

青木 陽子氏

飛騨市 市民福祉総合福祉課
地域生活安心支援センター
「ふらっと」センター長

講演の詳細は裏面をご覧ください



←飛騨市の取り組みは
全国ニュースになっています。

※受付完了メールを必ずご確認ください



※講演の後、質問時間がございます。

休憩中に質問を集め、可能な限りお応えいたします。

オンデマンド配信を当日から1カ月間行います。

現地参加される方、そしてオンデマンドのみの視聴をご希望される方も案内を送りますので事前の申し込みをお願いします。

主催：一般社団法人Roots4

後援：那須塩原市 那須塩原市教育委員会

一般社団法人
Roots4 下野新聞

生活協同組合パルシステム

茨城栃木2025くらし活動助成基金

セミナー対象者

- ・子育てをしている保護者
- ・学校の先生方や医療福祉の支援者
- ・行政施策に関わる方
- ・作業療法士等の専門職

開催場所

那須塩原市図書館 みるる
サクシード・ツグナラホール

日時

11/15 (土)

講演：13:00 ▶ 15:30

参加費
無料

定員

現地 先着 50名 締切：11/8 (土)
(定員決まり次第終了)

ご予約はこちらから



カメラで読み込み
申し込みをしてください

今回の講演会で聞けること

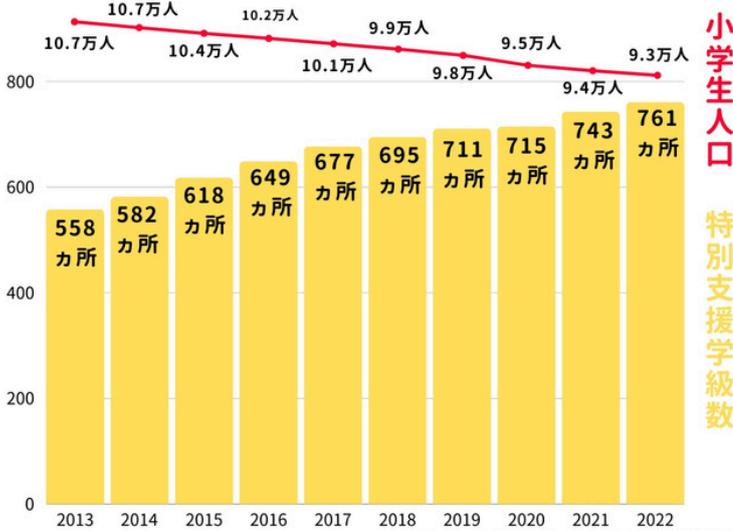
行政の視点から観る、子育て支援と子どもの発達支援の在り方とは？

乳幼児期から学齢期まで幅広い視点の行政施策にどのように作業療法士が関わってきたのか。実際の施策担当の講師にお話いただきます。全国で学校に作業療法士が関わる事例は増えてきていますが（学校作業療法と呼ばれています）。学校に作業療法士が関わる事で、こどもたちと現場にどのような変化をもたらしてきたのか、飛騨市独自の施策と学校での実践、施策が必要とされてきた経緯と実施への想い、その効果に注目です。

何故やるの？

栃木県においても 学校での発達支援の必要性を感じているから

小学生人口は減少に対し、特別支援学級の数が増加



栃木県 学校基本統計（学校基本調査報告書）より作成

栃木県では

こどもは徐々に減少しているのに対し、
特別支援学級の数が増加している。

そして、通常学級にも発達支援が必要なお子さんはいます。そのため、発達支援のニーズは高まっていると言えます。困り事を抱えている学校現場での作業療法士の関わりは、子どもたちの安心安全の環境づくりに繋がり、教員の本来こどもたちに届けたい教育を実現するサポートが、求められていると感じているからです。

どんな取り組み？

飛騨市の学校に作業療法室ができて

教育現場でパイオ・サイコ・ソーシャル を整える作業療法士



作業療法士とは人の心と身体と社会性の全般に関わる専門家です。

市では、作業療法士が市内のすべての小中学校に月2回定期訪問し、すべての子どもたちの成長の支援に関わっています。学校は子どもたちの成長にとって大きな影響を与える場所です。学校で起きるさまざまな困難に対して、子どもたちが自身の力で乗り越えられる力を育てるよう作業療法士が個別の支援対応からクラス、学年・学校全体の対応まで幅広く子どもたちに関わっています。作業療法士の子どもたちを見る視点は子どもたちの成長に欠かせないものとなっています。また、教員が子どもたちへの対応で悩まれる部分や教員が日頃対応している保護者からの相談に、作業療法士の専門的視点から対応することで教員の手数を減らします。これにより教員が本務である勉学を教えることに時間が取れるようになりました。こうして学校が子どもたちや保護者、教員にとってより良い環境となるよう学校すべてにかかわる黒子として立ち回っています。

すべての学校に保健室があるように、すべての学校に作業療法室を配した全国でも例のない取り組みを展開しています。（飛騨市HPから引用）